

新型インフルエンザの予防接種について

〜知っていただきたいこと〜
 ご理解していただきたいこと〜

今月の担当
 瀬糊区
 藤田 京です

11月16日(月)から、新型インフルエンザの予防接種を開始しています。

この予防接種は、現時点では、重症化や死亡の防止に一定の効果も期待されますが、感染の防止・流行の阻止に対しては、効果が保証されていません。そのため、接種したからといって、罹らないわけではありません。

また、ワクチンの提供できる量に限りがあるため、重症化しやすい方を優先して、接種する対象の順番が決められております。

季節性インフルエンザと同様に、任意接種となり、個人の選択により接種していただくようになりますので、ご理解をお願いいたします。



◆新型インフルエンザの特徴

新型インフルエンザは、季節性のインフルエンザと抗原性(免疫反応を引き起こさせる物質の性質)が大きく異なっており、免疫を獲得していない人が多く、また、感染力も強いために、各地において急速な蔓延により、全国規模での流行が本格化しています。

新型インフルエンザの症状は、突然の高熱(38℃以上)、咳やのどの痛み、頭痛、鼻汁・鼻閉、全身の関節痛・倦怠感など季節性のインフルエンザと似た症状が特徴です。また、季節性と比べ、下痢などの消化器症状が多い可能性が指摘されています。ほとんどの人が軽症で回復しますが、小児や慢性的に持病のある方は、重症化しやすい傾向があるので注意が必要です。

自覚症状があり、インフルエンザと疑われる場合は、必ず、事前に医療機関に電話をして、受診方法について確認をするようお願いいたします。

新型インフルエンザは抗インフルエンザウイルス薬(タミフル・リレンザ)が有効とされています。ウイルスの増殖を抑え、発症後48時間以内

の投与であれば、効果が期待されます。副作用の危険性もあるため、医師との相談にて処方されます。

重症化の心配がなく、入院の必要性がない方は、自宅にて療養することになります。家族とは別の部屋で過ごし接触を避けるようにします。タオルは家族と違うものを使用し、マスクを着用してください。マスクは湿度を保つため、呼吸が楽になる効果もあります。時折窓を開けて換気をし、スポーツドリンクなどの水分補給はこまめに摂るようにしてください。また、消化の良い食事と十分な睡眠が回復を早めます。熱が下がってから2日間感染する可能性があるため、外出を控えるようにお願いします。

◆ワクチン接種の効果と安全性・副反応

今回使用される国内産の新型インフルエンザワクチンは、季節性インフルエンザと同様の方法で製造されており、安全性については季節性のインフルエンザワクチンとほぼ同程度であると考えられています。接種後に引き起こされる症状(副反応)については、比較的頻度の高い副反応として、接種した部位(局所)の

発赤や腫れ、疼痛が10〜20%に起こります。また、全身性の反応として、発熱、頭痛、寒気、倦怠感などが5〜10%に起こり、いずれも2〜3日で消失します。まれに、ワクチンに対するアレルギー反応として、じんましんやそれに伴うかゆみなどがみられます。また、重篤な症状(喘息発作、けいれん、急性脳症、肝機能障害など)を引き起こす可能性もあります。

ワクチン接種に伴い生じた健康被害の救済措置については、新型インフルエンザによる新たな特別措置法が制定され、給付の額などについては、季節性インフルエンザの定期予防接種の給付措置を踏まえ、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づく副作用救済給付と同様により対応されます。

◆優先接種対象者

11月12日及び今回の全戸配布によるチラシにおいて、詳しくお知らせしておりますが、優先接種対象者順に、接種を開始しております。

対象者のうち、接種を希望される場合は、必ず医療機関で予約が必要になります。

接種費用等につきましては、全戸配布のチラシをご覧ください。

◆新型インフルエンザワクチン

Q&A

Q1 季節性インフルエンザワクチンは新型インフルエンザワクチンにも効果があるのでしょうか?

A1 それぞれのワクチンはそれぞれ

新型インフルエンザワクチンの予約・接種スケジュール（予定）

優先接種対象者	接種開始時期	予約開始予定時期
医療従事者	10月23日(金)～	—
妊婦	11月16日(月)～	11月2日(月)～
基礎疾患を有する方（最優先）	11月16日(月)～	11月2日(月)～
基礎疾患を有する方（その他）	12月4日(金)～	11月24日(火)～
幼児（1歳～就学前）	12月4日(金)～	11月24日(火)～
小学1年～3年	12月中旬を検討	12月中旬
1歳未満児等の保護者等	1月上旬	12月上旬
小学4～6年生	1月中旬	12月中旬
中学生、高校生、高齢者	1月中旬	12月中旬

このワクチンの予約・接種のスケジュール（予定）は、国が先に示した接種スケジュールを基に、目安として作成したものであり、今後、変更があります。

主治医がいる方
(入院/通院)

原則、
主治医が対応

基礎疾患等での入院・通院中の医療機関がない方

行政が公表する医療期間リストから任意に選択して受診

⇒基礎疾患の「最優先」と「その他」は主治医が判断する。

⇒1歳未満児等の保護者等とは、1歳未満児の保護者等と優先接種対象者（幼児～小学3年生までに限る）のうち身体上の理由により予防接種が受けられない場合の保護

Q2 優先接種対象ではない人は接種できないですか？優先接種対象者は新型インフルエンザワクチンを接種しなくては行けないですか？
A2 国としては対象者以外の方々についても、優先接種が終了しだい、希望者が接種を受けられるようにする必要があると考えており、今後の流行の状況、ワクチンの供給量などを踏まえ対応していくようです。また、今回の新型インフルエンザ接種については、優先接種対象者についても、接種義務が生じるものではなく、個人の選択により接種を受けることとなります。

また、季節性インフルエンザは、0歳～12歳までは2回接種、それ以外は1回接種。新型インフルエンザの優先対象者は、1歳～高校3年生までは2回接種、それ以外は1回接種が必要です。2回接種の場合は、それぞれ1週間から4週間の間隔をあけて接種します。

このインフルエンザにしか効果がないと考えられています。季節性のインフルエンザワクチンを希望する場合は、12月中旬頃まで接種することが望ましいとされています。なお、国内産の新型インフルエンザワクチンと季節性のインフルエンザワクチンの同時接種は、医師が必要と認められた場合に、同時実施可能とされており、直接主治医に確認をお願いいたします。ただし、輸入ワクチンの同時接種については、検討の必要性があり、当面差し控えることが望ましいと考えられています。

Q3 新型インフルエンザに感染した人でも、新型インフルエンザの予防接種が必要ですか？
A3 一般的に、新型インフルエンザに感染して発病した方は、免疫を持っておりと考えられているため、予防接種をする必要はないと考えられています。ただし、確実に新型に感染したと言えるのは、A型と判定された方のうち、確定検査（PCR検査）を実施した方のみです。確定検査は、重症で入院が必要と判断された方が該当になります。確定されていない（不明な）場合、これまでのインフルエンザは新型である可能性が大きいことをご理解の上、希望すれば接種は可能です。

Q4 国内産と輸入ワクチンでは何が異なりますか？
A4 海外で製造されたワクチンについては、現時点では国内での使用経験や実績がないこと。国内では使用経験のないアジユバンド（免疫補助剤）が使用されていること。これは、ワクチンと混合して投与することにより、免疫作用を増強する物質であり、一般的に、副反応の発生する確率が高いことが指摘されています。また、国内では、鶏卵培養より製造されていますが、使用経験のない細胞株を用いた細胞培養より製造されていることなど、国内で製造されたワクチンとは異なっております。今後、様々なデータをもとに、有効性・安全性を確認してから実際の接種を開始することとなります。

Q3 新型インフルエンザに感染した人でも、新型インフルエンザの予防接種が必要ですか？
A3 一般的に、新型インフルエンザに感染して発病した方は、免疫を持っておりと考えられているため、予防接種をする必要はないと考えられています。ただし、確実に新型に感染したと言えるのは、A型と判定された方のうち、確定検査（PCR検査）を実施した方のみです。確定検査は、重症で入院が必要と判断された方が該当になります。確定されていない（不明な）場合、これまでのインフルエンザは新型である可能性が大きいことをご理解の上、希望すれば接種は可能です。